

日本体育図書館協議会 2012年度研修会  
**自立を求められる専門図書館活動  
から見えているもの  
～組織の中で図書館専門職である  
ことを活かすには～**

**(一財)大阪府男女共同参画推進財団  
木下 みゆき**

**2012. 11. 19**

# 内 容

はじめに～自己紹介 ほか～

1. ドーンセンターについて
2. 運営・企画に活かす図書館員の“基本”
3. 図書館を「伝える」には
4. 私たちはどんな図書館をめざすのか



# 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)



# 1. ドーンセンターについて

- 1994年11月オープン
- 男女共同参画社会を実現するための拠点施設
- 年間利用者 約33万人  
(1日平均約1,130人)
- 「事業」「相談」「**情報**」の3つの柱



- 運営は大阪府男女共同参画推進財団
- 2006年3月 大阪府から指定管理者に指定 \*施設管理(貸館)業務
- 2009年4月 大阪府立男女共同参画・青少年センターへ名称変更
- 2010年2月 市場化テスト  
(公募型プロ ポーザル方式)
- 2010年4月 受託業務開始 \*ソフト部分

大阪府

事業委託

指定管理者の指定



(一財)大阪府男女共同参画推進財団

啓発学習  
文化表現など  
さまざまな事業

相談事業

情報  
事業

ドーン事業共同体

(財)大阪府男女共同参画推進財団  
(財)大阪府青少年活動推進財団  
NPO法人DIVE

施設管理や貸館業務

入館者数 年間約33万人

## ●2つのホームページ

- 大阪府立男女共同参画・青少年センター

<http://www.dawncenter.or.jp/>

- (一財)大阪府男女共同参画推進財団

<http://www.ogef.jp/>



# ●大阪府財政再建プログラムをめぐって

## ○2008年2月 知事就任当初

- ・ドーンセンターの土地建物の売却
- ・大阪府男女共同参画推進財団の廃止
- ・施設管理や事業の**民営化**

## ○4月11日 プロジェクトチーム財政再建試案

- ・**情報ライブラリー**資料を府立中央図書館へ
- ・セイフティネットである相談機能に特化
- ・平成20年度財団廃止、事業は大阪府直営



## ○5月30日 府男女共同参画課の方向性提案

- 人件費等府の運営補助は22年度から廃止
- 府の委託事業は競争入札を導入
- 財団組織のスリム化(=府職員の引き上げ)
- 事業を精査し、**専門的な情報収集・提供、**  
課題解決型・実践的な講座等の事業を実施
- 文化表現事業や国際交流事業等は廃止
- ドーンセンターの多機能化  
(府立青少年センターの廃止に伴う)



## ○6月5日 知事財政再建案

- ・情報ライブラリーの図書を専門図書に特化
- ・カウンセリング事業の一部を継続
- ・大阪府委託事業は市場化テストで実施
- ・財団を平成21年度(2009年4月)から自立化

## ○7月 臨時府議会

- ・財団の自立化時期の1年延長  
(2010年4月)



○2010年2月

府の市場化テスト受託へ応募

○2010年4月

委託事業者として事業をスタート



## 2. 運営・企画に活かす図書館員の “基本”

1)外部予算獲得に図書館機能をPR、  
活用するには

(例)

- 公共職業訓練「母子家庭のお母さん等を対象とした職業訓練」
- 国の事業
- 他市の男女共同参画関連事業



## 2) 図書館員が担う役割との共通性

**「人を情報をつなぐ！」**

**「活動や研究を情報提供でバックアップ！」**

(例)

- 「東日本大震災被災地における女性の  
悩み・暴力相談事業」
- 「配偶者からの暴力被害者支援のための  
官官・官民連携促進ワークショップ事業」

## 【例】【内閣府 官官・官民連携ワークショップ事業】

- ・全国の配偶者暴力相談支援センターにおける配偶者からの暴力に関する相談件数は、支援センターの運用が開始された平成14年度から年々増加している。こうした状況から、内閣府では、第3次男女共同参画基本計画において、配偶者暴力防止法により設置の努力義務が規定されている市のセンターについて、平成27年までに100か所にすることを成果目標としている。

### ● 間接的なDV被害者支援

= 図書館員が担う“裏方仕事”（活動や研究を情報提供でバックアップする）と共通！ ●

### 3)「私は図書館員の仕事がしたい！」 というスタッフの思い

＊問われることは…

⇒“図書館の仕事、してへん”と言いながらも、いかに図書館と事業をつなぐか、図書館員としての役割に軸足を置いて仕事をするか、できるか。



### 3. 図書館を「伝える」には

- 1) 総花的ではなく、ポイントを絞る
- 2) 強みを前面に
- 3) ストーリーをつくる
- 4) 他部署の機能と関連づける





**(例)1**

**～公共図書館との差別化をはかり  
一層の専門図書館化～**

**『2011 Year's Report』事業ピックアップ より**



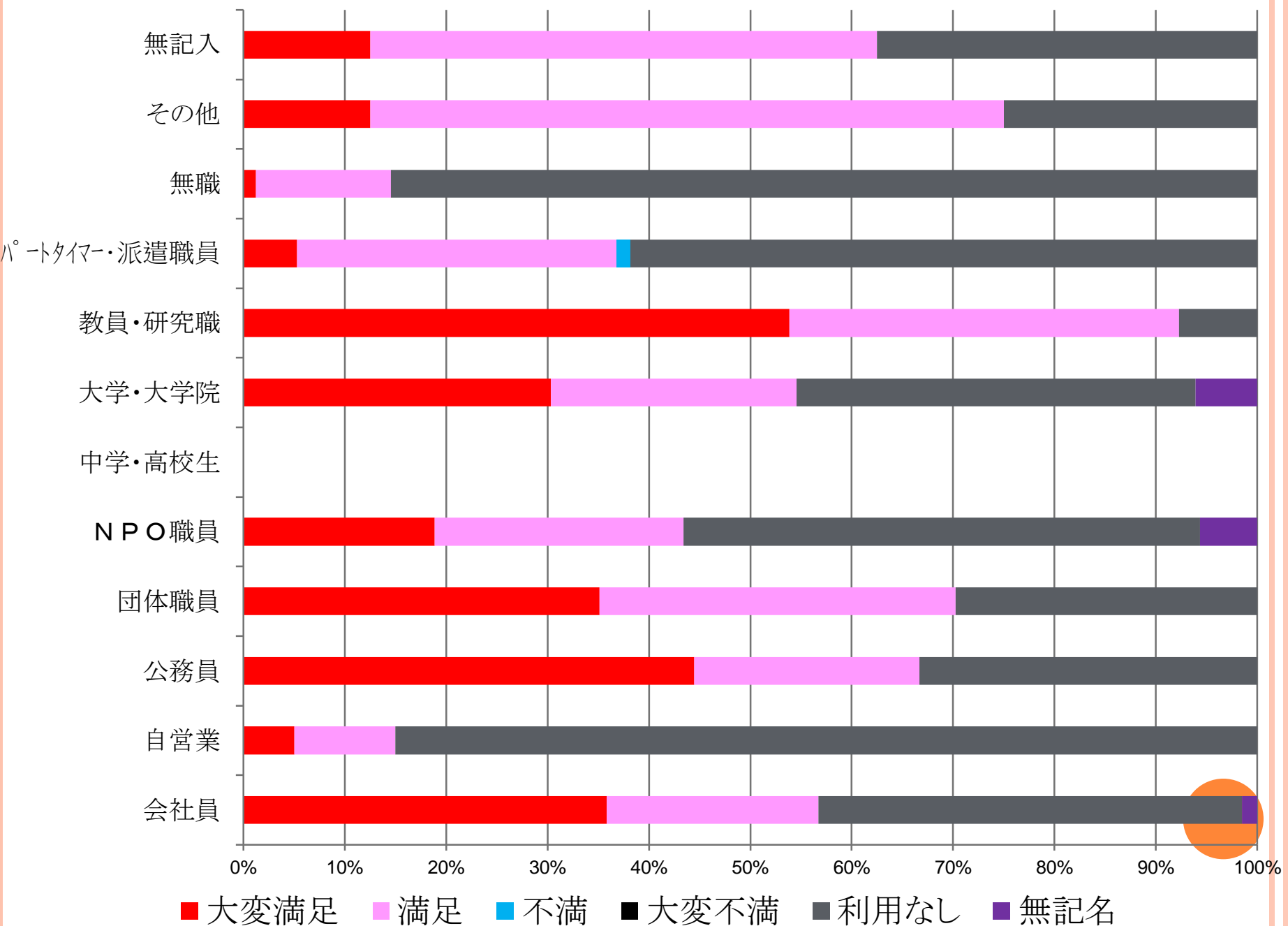
## ＜重点的な取り組み＞

- ①最適な情報の収集と整理、  
データベース化
- ②指導的立場の方々への専門的な  
情報相談
- ③ライブラリー機能を活用した  
プログラムの実施



- 来館者アンケートの結果
  - ⇒ 「専門図書館としての機能」に評価
  - \* 情報相談満足度：職業別





**(例)2**

**～「情報」「相談」「啓発」事業の連携～**

**『2011 Year's Report』事業ピックアップ より**



# 1) 多様な自主事業をリンクさせた総合的 事業展開

- 【情報】×【啓発】×【各種自主事業】
- 【キャリア塾】×【情報】
- 『Women Pioneers』×【情報】



## 2)ドーンセンター施設機能を活かした 事業展開

- 【女性芸術劇場】×【情報】  
×【ドーンセンター】
- 【シングルマザーを対象とした職業訓練】  
×【情報】×【相談】×【啓発】  
×【ドーンセンター】

## 4. 私たちはどんな図書館をめざすのか

### \* 事業のコンセプト

- 1) ドーンセンター事業との連携
- 2) 男女共同参画関連の課題解決支援
- 3) 他機関との連携・アウトリーチ

⇒ 専門的情報ニーズに応える

アクティブなライブラリー

